

## 平成30年度 事業者向け 児童発達支援事業自己評価表

		チェック項目	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	限られたスペースの中で、場所の使い方を職員間で話し合い、過ごしやすいようにしている。
	②	職員の配置数は適切であるか	利用者数以上に十分な職員配置をしている。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	室内環境では利用者に合わせて踏み台や小さな椅子などを用意しているが、2階まで階段で上がらなければならないので、改善が必要。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	日々の記録とミーティングを活用している
	⑤	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	保護者向け評価表、年に2回の面談を行っている。内容は必要に応じてスタッフ間で共有し、改善に努めている。
	⑥	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	ホームページで閲覧できるようにする。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	今後、第三者評価を取り入れるか検討する。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	事業所内外で研修機会を設けている。
適切な	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	アセスメントシート等を作成し、個々のニーズや将来への見通しを基に支援計画を作成している。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	法人独自の様式を使用し、必要な支援が何か検討している。
	⑪	児童発達支援計画には、「児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	現在の発達年齢や将来の見通しについてご家族とも話し合い支援内容を設定している。
	⑫	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	行っている。

支援の提供	⑬	活動プログラムの立案をチームで行っているか	チームで記録を確認し、次回の利用に反映している。
	⑭	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	個々の課題にあわせて毎回プログラムを設定している。
	⑮	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成しているか	利用者の状況に合わせて計画を立てている。
	⑯	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	支援開始前に、活動・支援内容や役割分担を確認し決めている。
	⑰	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	日報、記録をもとに、支援者と管理者が情報共有している。
	⑱	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	日々の記録をもとに次回の利用に向けて支援の検証・改善を行っている。
	⑲	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	年に2回のペースでモニタリングを行い、利用者の状況に合わせて見直しを行っている。
関係機関や保護者との連携関係機関	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	基本的には管理者が参加している。
	㉑	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	相談員や保護者を通しての情報共有に加え、必要に応じて関係者とカンファレンス等を行っている。
	㉒	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	地域の放課後等デイサービスとの情報共有、保育園の園庭開放への参加、学校との引継ぎなど連携をとっている。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	事業所の嘱託医とは連絡が取れる体制を取っている。主治医とは今後は看護師指示書を通して指示をいただく。三号研修を実施する場合は、喀痰吸引指示書をもらっている。
	㉔	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	保育園移行の際には、保護者を通じて連絡を取り合い、情報共有を行っている。
㉕	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	小学校の特別支援教育コーディネーターの見学受け入れ、ほわわでの様子の引継ぎを行っている。	

こ や 保 護 者 と の 連 携	②⑥	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	利用者の個別支援計画に応じ、平行利用している場合には連携を行っている。
	②⑦	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	保育園の園庭開放、ナースリールームの参加。近所の公園での子どもたちとの交流を行っている。
	②⑧	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	現在は参加できていない。今後積極的に参加していきたい。
	②⑨	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	送迎時に情報共有を行っている。必要に応じて、電話で連絡を取り合っている。
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	③⑩	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	個々の支援内容をご家族にも伝え、理解を板打ている。
	③⑪	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	見学児や契約時に書面を用いて説明を行っている。
	③⑫	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	ガイドラインの内容もふまえて計画を作成している。
	③⑬	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	いただいた相談に乗りながら、助言等支援を行っている。
	③⑭	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	クリスマス会などの家族参加型行事を開催している。
	③⑮	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	いただいたご意見を早期に対応できるよう迅速に情報共有し、対応できるようにしている。
	③⑯	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	エリア内で毎月お便りを発行している。
	③⑰	個人情報の取扱いに十分注意しているか	注意している。
	③⑱	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	配慮している。

非常時等の対応	③⑨	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	町内会に加入し、地域のイベントに参加している。
	④⑩	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	各マニュアルを作成し、職員、保護者の方に必要に応じて周知、訓練を行っている。
	④⑪	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	災害時のマニュアルを作成し、避難訓練を実施している。
	④⑫	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	連絡帳に記載していただき、ご自宅での状況を把握している。
	④⑬	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	現在のところ未実施ではあるが、必要に応じて丁寧に説明し、計画に記載し、同意いただくように努める。
	④⑭	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	日報や記録を活用している。会議等で事故防止に努めている。
	④⑮	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	日報や記録を活用している。会議等で事故防止に努めている。
	④⑯	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記	現在のところ未実施ではあるが、必要に応じて丁寧に説明し、計画に記載し、同意いただくように努める。